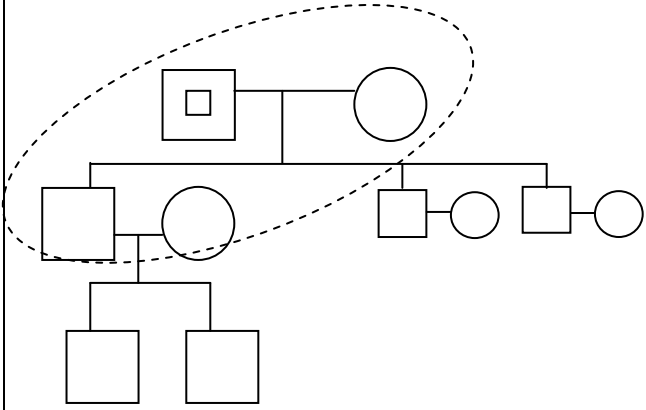


<p>【事例のタイトル】 想いに添うための協働とは</p>	
<p>【この事例を選んだ理由】 どのように協働すればいいのか、皆さんのアドバイスを聴きたい。</p>	
<p>【利用者の家族状況】</p>  <p>●主たる介護者 妻 ●家族関係 長男夫婦は共働き、介護は妻の役割としている。</p>	<p>【利用者の基本情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●年齢 90 歳 ●性別 <input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女 ●要支援 1・2 ●要介護 1・2・3・4・<input checked="" type="radio"/> 5 ●J・A-1・A-2・B-1・B-2・<input checked="" type="radio"/> C-1・C-2 ●0・<input checked="" type="radio"/> I・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IV・M ●障害 有 <input checked="" type="radio"/> 無 () ●既往歴 ●現病歴 H18年 脳梗塞後遺症 H19年 肺気腫、慢性呼吸不全 H19年 反復性誤嚥性肺炎、胃ろう経管栄養 ●住環境 商店通りにあり、玄関に面した本人の自室。訪問客の声も届きやすい。
<p>【生活歴】 青果の卸売りをされていた。生涯の趣味として骨董品や古美術に関心があり、退職後も H17 年脳梗塞発症までは市周辺、関係箇所を行き来される。信仰心が厚く、古美術や古書を身近に置きながら生活をされてきた。「結婚し 60 年、趣味に熱中しやすく、几帳面な性格」と妻。</p>	
<p>【契約（利用開始）までの経緯】</p>	
<p>【利用者の希望・要望】 古美術にたずさわりながら、家での生活を続けたい。 筋力が落ちていくのは自分で分かる。今の力を落とさないようにしたい。</p>	
<p>【家族等の希望・要望】 本人が若い頃から大切にしている古美術にたずさわった生活を、気持ちや会話の時間を大事に支えてゆきたい。</p>	

標準項目名	項目の主な内容 (例)	問題と思われる状況	印象に残っている 本人・家族等の言動 (言葉については「逐語」で記載)
健康状態	既往歴、主傷病、症状、痛み等	慢性呼吸不全、肺気腫による呼吸機能の低下。在宅酸素療法を行う。 誤嚥性肺炎を繰り返すため、経口摂取ができない。	本人「(健康状態)今の身体では、春が来て、まあ、あと1年くらいだよ」
ADL	寝返り、起き上がり、移乗、歩行、着衣、入浴、排泄等	半～全介助での端座位から P トイレ、車椅子への移乗。胃ろうにしてからは、ベッド上での生活が主となる。ADLは、徐々に低下。	本人「妻の負担を少しでも軽くしたい、(筋力が落ちていくのは自分で分かるので)落とさないようにしたい」 妻「本人の気持ち、うれしかった」
IADL	調理、掃除、買物、金銭管理、服薬状況等	骨董品や古美術に対するの思いがあり、気が向くと介護者に伝え、ベッドに持ってきてもらい由来や魅力を話す。	本人「自分に何かあれば、集めた古美術を売ってこれまで見てくれた小遣いにしてくれたらいい」
認知	日常の意思決定を行うための認知能力の程度	問題なし。	妻「正直に言えば、もう少し分からなくなってくれたら介護が楽になると思うこともある」
コミュニケーション能力	意志の伝達、視力、聴力等	問題なし。	面接時、本人は妻のいない場面で妻への感謝の言葉がある。
社会との関わり	社会活動への参加意欲、社会との関わりの変化、喪失感や孤独感	長年にわたり古美術を通じた関係者との繋がりがあり、要介護状態になっても訪問客があったが、入退院の繰り返しのなか訪れる知人も少なくなってきた。	妻「人と話した後の疲れもあるようで、周りも気を遣い、知人が訪れる機会も少なくなった」
排便・排尿	失禁の状況、排尿排泄後の後始末、コントロール方法、頻度等	尿便意あり。体調によってリハビリパンツ、オムツと使い分けて着用。排便は P トイレ、排尿は尿器使用だったが、体調不良が続きオムツ着用。	妻「私の膝痛もあり、本人に話しオムツを使用している」
床ずれ・皮膚の問題	褥瘡の程度、皮膚の清潔状況	週1回、通所介護利用時の入浴、訪問介護を利用した清拭であるが、体調によって利用を中止する。 定期的な入浴が難しい状況。 胃ろうにしてからはベッド上で過ごす時間が多くなり、床ずれ予防マット使用。仙骨部に発赤あり。	妻「ゆっくりと入浴を援助したいが、体調不良もあって定期的な保清が難しくなってきた」

口腔衛生	歯・口腔内の状態や 口腔衛生	保たれている。	
食事摂取	栄養、食事回数、水分量等	胃ろう。 経口摂取は禁止されている。	妻「心を鬼にして、与えないようにしている。」 本人「食べられないことが一番辛く、時に天井から食べ物が降ってくるように感じる。」
問題行動	暴言・暴行、徘徊、 介護の抵抗、収集癖、火の不始末、不潔行為、異食行動等	時に、「あっちへ行け！」と妻に言うことがある。	
介護力	介護者の有無、介護者の介護意志、介護負担、主な介護者に関する情報等	主介護者の妻は 83 歳。 膝関節症あり。 月に 3 日のショート利用で、身体を休める。	妻「自宅で介護しようと決意した。」
居住環境	住宅改修の必要性、危険箇所等	玄関の段差解消と屋内手すり取り付け。	
特別な状況	虐待、ターミナルケア等		

● 現在利用中のサービス・サポート（入院・入所も含む）

サービス・サポート	頻度	サービス・サポート	頻度
〇〇病院	脳梗塞発症時入院	ショート	月 3 回
△△医院（主治医）	適宜	福祉用具貸与	車椅子・ベッド
通所介護	週 1 回		
訪問介護	週 1 回		
訪問リハ	週 1 回		